

キャリアとキャリア教育

1. キャリアとは

文部科学省では、人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出し、いく連なりや積み重ねと定義していますが、滋慶学園では、人が生きていく中で、一般的に学生、職業人、家族の一員、社会の一員などを担っていく社会的役割の一つひとつを「キャリア」と解釈しています。

「キャリア」は次の3つの要素で構成されます。

1. 様々な役割

人が生活し生きていく過程には、常に様々な役割があります。子ども時代には<子ども>という役割、学生時代には<学生>という役割、仕事をするようになれば<職業人>といったように、人生は役割が続いていき、それらを実践しながら歩んでいきます。

2. 自分が担う役割の価値

それぞれの役割を果たすことで得られるものが、「自分が担う役割の価値」です。<学生>や<職業人>などの役割を果たすことで得られるものが、喜びや自信、お金、名誉、自己表現などの様々な価値です。この生まれる価値に満足しているかどうかで、役割を果たすモチベーションが左右されます。

3. 自分と役割との関係

自分が担う役割の価値に満足や納得がいけないと「自分と役割との価値」に葛藤が生じます。たとえば、現在の自分の仕事（役割）に対して「現状に納得がいけない、やりがいを感じられない」という状況であれば<自分>と<役割>との間に葛藤が生じます。この場合、2つの選択肢があり、ひとつは転職するなど状況や環境を変えするという選択肢もあります。また、もうひとつは、今の状況でのやりがいを見つけるという選択肢もあります。どちらの選択肢も、心境が変わると<自分>と<役割>との葛藤した関係を緩和できます。

2. キャリア教育とは

社会人として一人前に仕事をする「力」を身に付けて、職業に就くことを促進する働きかけです。職業について仕事をする事ができれば、時間的にも経済的にも生涯の大半を生活し生きていくことが可能です。しかし、「ただ過ごせばいい」という考えではありません。<仕事>という活動の基盤を獲得した上で、自分らしい生き方の実現することと社会的役割の遂行、その両方を満たすことが望ましいと考えられています。キャリア教育とは「社会との共生を叶える人の育成」をねらった取り組みです。このように、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「キャリア発達」といいます。キャリア教育はより良い人生となるように、ひとり一人の「キャリア開発」をすることを目的としています。

滋慶学園では、社会的に自立するために必要とされる技術、知識、態度、考え方を育み、求められる行動を習慣化させていく教育であると解釈しています。

3. キャリア教育マップ [滋慶学園 キャリア教育体系と教育設計ガイドライン]

